

2018年度 自己点検・評価報告書

青森明の星短期大学

■目次

●保育専攻	01
●コミュニティ福祉専攻	02
●教育支援部	03
●教育事業部	04
●学生支援部	05
●入試広報センター	06
●キャリア支援センター	07
●総務課	08
●教務課	09
●学生課	10
●入試広報課	11
●図書館	12
●明の星学園生涯学習センター	13
●青森明の星短期大学国際交流センター	14

部署名：保育専攻

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 学生の主体的な学びを支える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 授業における主体的な学びの方法と工夫 再課程における授業内容の見直しと計画 授業に関連する研究（協働研究）の促進 行事の目的と計画の見える化による参画促進 	<ul style="list-style-type: none"> 各々の授業において、ロイロや iPad の使用、AL の工夫が見られた。 授業内容の見直しと精査により、再課程の条件を満たし認定された。 各々学会活動等の他、本学研究紀要への投稿は授業に関する研究が 4 本(共同含む)掲載された。 	A	(教育内容の充実) ・再課程認定後のカリキュラムおよび授業内容の検証行い、教育の質の向上に努める。 ・行事関連および業務の「見える化」については、さらに改善に努める。
2. 日常の教育活動におけるキャリア教育および支援（卒後含む）	<ul style="list-style-type: none"> 社会性・マナー・関わる力の育成(日常化) ワークスタディによる主体性・社会性の促進 地元求人との連携の促進 卒後支援の一助となる研修等（発達相談含む）への教員の派遣 	<ul style="list-style-type: none"> 本学企業説明会（2 回実施）の時期と内容が、実習時期と有機的に繋がり、就職活動の動きと流れにメリハリがあった。 ワークスタディの学内・外の活動の幅が広がり、学生の主体性・社会性の促進を促す機会となっていた。 保育現場の研修への派遣等、積極的に対応した。 	A	(進路・人材養成) ・地元求人に対し、更なる連携・関係づくりの促進。 ・短大と実習先相互の実習指導の質の向上のための取組みの工夫。
3. 学生の保育・教育力の向上と地域に関わる取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 社会体験の促進（ボランティア、公演他） 付属幼稚園との連携活動の実施 あそびのひろば、出前講座（学生参加型） 	<ul style="list-style-type: none"> 付属幼稚園の教育活動に継続的に参加し、人材養成や実習の課題等について共有を図るよう務めた。 食育プロジェクト(県助成)を計画通り全て実施した（学生による出前講座、フォーラム開催、報告会等）。 他校と共同開催による造形展および学内・外におけるあそびの広場等のイベントにおいて、積極的に学生の参加・地域交流を図った。 	A	(地域・学外との関わり) ・地域との食育活動の継続。 ・付属幼稚園との教育活動の協働に向けて、専攻の教員との関わりの機会を増やす。
4. 保育専攻の広報の充実（学内・外発信）と専攻の募集目標値の確保にむけて	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携、高校への出前授業、説明会奨励 専攻に関わる各種イベント等の広報強化 各種訪問等の機会（実習含む）における短大広報グッズの持参と積極的な PR 	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携プログラム、高校への出前授業および説明会への参加、高校訪問等、可能な限り対応した。 専攻に関する様々なイベントや日常の授業の様子等も含めて短大ブログの更新を継続し、PR に務めた。 実習を含む外部訪問の機会においては、短大広報グッズを持参し、短大の PR に努めた。 	A	(募集広報活動) ・引き続き保育専攻の活動の様子を学内・外に伝える意識を高め、発信していく。 ・イベント等のニュースリリースの徹底を図る。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・再課程認定後のカリキュラムおよび授業内容の検証を行ってほしい。
- ・昨年に引き続き、専攻および個人・共同等において外部資金の獲得努力の継続が望まれる。

部署名：コミュニティ福祉専攻

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. コミュニティ福祉専攻の指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格に向けての指導体制の充実。(介護福祉コース) ・学生個々の希望・方向性に対応した指導体制の更なる充実。(ビジネスコース) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の他に、模擬試験結果を踏まえ、12月に補習(個別指導4名)を実施した。 ・キャリア支援プログラムの実施によりキャリア意識の高揚に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉総論は模擬試験とは切り離し、国家試験対策講座を15回実施する。 ・補習授業の実施方法を検討する。 ・授業記録を徹底し、国家試験対策に有効活用する。 ・年間指導計画に基づいて実施する。
2. キャリア教育の日常化	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力の向上 ・就職活動の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省の様式による専攻学生全員の「社会人の基礎力」に関する調査(自己評価)を11月に実施した。 ・就職活動については、個別対応が必要な学生に対し、チューターに加え専攻長もマンツーマンで対応を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の調査の結果、特に数値が低かった項目に関して、学生指導に活かしていく。 ・早期からの就職活動の意識付けが必要。
3. 卒後支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学生祭でのリカレント ・卒業生個々の希望に応じた対応 ・介護福祉士国家試験受験対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生が来やすいように、学生祭に合わせて開催した。 ・卒業生の相談に応じ、准看護師養成校へ進学、ケアマネ合格等の実績が出ている。 ・国家試験に不合格であった卒業生に対し、支援を行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、講習会より要望が多かった「よろず相談」を中心に企画し、相談内容によっては日を改めて個別指導を実施する。 ・卒後支援に関する情報は在学生にも周知する。
4. 学校や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校への広報活動や出前講座 ・高大連携事業への協力 ・委託事業の受託 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の体験授業(高大連携事業、出前講座)やむつ市民大学講座等を実施。 ・インバウンド対応、企業セミナーへの参加等、地域と連携した様々な教育活動を行った。 ・委託事業に関しては年度途中でキャンセルとなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も高等学校への募集活動(広報活動や出前講座)は最大限に実施する。 ・今年度の実施状況を踏まえ、年間計画を立て実施する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・次年度は介護福祉士の新カリキュラム整備に入るため(2021年度～実施)、ビジネスコースも合わせて継続してカリキュラムの改善・検討を行ってほしい。
- ・社会人基礎力調査については、学内に実施の経過と報告を公表されたい。

部署名：教育支援部

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 3つのポリシーと学修成果の関連性の明確化	・各教科のシラバスをDPに関連付け、シラバスの形式変更を検討する。	・シラバスにDPを反映した項目を追加し、シラバスの形式を変更した。	A	・3つのポリシーと学修成果の関連性を明確化するとともに、学修成果の可視化に向けて継続検討を行う。
2. カリキュラム検討	・教職再課程認定に伴い、保育士養成課程科目の見直しを行う。 ・ビジネスコースの科目の充実を図る。 ・+αの資格を検討する。	・教職課程・保育士養成課程ともにカリキュラムの見直し・変更をした。 ・ビジネスコースの科目の充実、+αの資格については十分な検討を行えなかった。	B	・授業評価について、評価アンケートの内容と実施要領を見直し、実施する。 ・ビジネスコースの科目の充実、+αの資格も含め、全ての専攻・コースの科目について引き続き検討を行う。
3. 教育課程のルーブリック評価	・主要資格のルーブリック評価の原案を練る。	・主要資格のルーブリック評価の原案作成にとどまり、意見交換は行ったが修正できていない。	C	・主要資格のルーブリック評価について検討する機会を設け、活用に結びつける。 ・DPと関連付けたルーブリック評価を作成する。
4. 学則についての検討	・カリキュラムの改定に伴う、学則の見直しを行う。	・3つのポリシーの改定、教職課程・保育士養成課程のカリキュラム変更に伴う学則の見直しを行い、運用について検討した。	A	引き続き検討を行っていく。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・3つのポリシーと学修成果の関連性の検証および学修成果の可視化にむけて、引き続き継続検討をお願いしたい。
- ・ルーブリック評価の実施に向けた取り組み、またポートフォリオの活用実態と改善についても検討されたい。

部署名：教育事業部

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1 教員免許状更新講習	<ul style="list-style-type: none"> 定員を大幅に超える申込に対し、先着順受付課題を検討し改善する。 講座実施時に運営スタッフの増員を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 延人数 572 名 7/28～12/16 23 回実施した。(各講習の定員を超えても、申し込みを全て受け入れた) ワークスタディ学生を起用した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 定員超過時は抽選とし次年度は 16 講座実施予定である。 ワークスタディ学生起用を継続する。
2 科研費申請	<ul style="list-style-type: none"> 公募案内の学内周知を強化する。 共同研究の周知及び推進をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 公募案内が届き次第スピーディーに周知を行った。(今年度の科研費申請は個人で 2 件) 共同研究の推進により 1 件採択された。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各専攻から科研費申請目標数の提示を促す。
3 共同 FD (青森中央短大)	<ul style="list-style-type: none"> 本年度担当校であるため計画的に実施する。 第 1 回アンケート結果を参考に、実施内容を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 青森中央短期大学との共同 FD2 回目を 2019 年 2/19 (火) 山梨県立大学理事長・学長 清水一彦教授を講師として実施した。 学内 FD 週間では、3 コースの担当教員が授業を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 共同 FD3 回目は青森中央短大が担当を引き継ぐ。 学内 FD について、全員参加できるように計画と内容を見直し検討する。(案：年間を通して実施、通常授業参観等)
4 高大連携	<ul style="list-style-type: none"> 高校連携事業の企画、運営に関して検討する。 高校との連携強化の為、積極的に働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 7/20 (金) 14:00～15:30 青森中央高校、青森商業高校合同高大連携事業を実施した。(中央 11 名、商業 8 名 計 19 名) 10/14 本学学生祭に商業高校参加 (学生 8 名、教員 2 名) かまぼこ、お菓子等販売した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も協定校である中央・商業と合同で高大連携事業を実施する。 本学学生祭での商業高校ブースを継続する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- 学内 FD および SD の内容についても、引き続き検討・改善を進めてほしい。
- 高大連携については、各専攻と連携をはかり、企画調整および実施にあたってほしい。

部署名：学生支援部

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 学友会活動の支援の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動活性化のための支援 ・地域貢献事業の参画 ・学友会執行委員の体制づくり ・年間行事の企画（体育祭、学生祭、クリスマスの集い）運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生祭以外のサークルの活動状況を十分に把握することが出来ず、活動の活性化を適切に支援することは出来なかった。 ・浪打銀座まつり、ねぶたの紙貼り等、地域の行事に参加した。 ・学友会執行委員と各サークルの代表者を対象にリーダーズ研修会を実施し、体制づくりを図った。 ・年間行事の企画については、予定通り実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動については活動支援のための内規を作成し、活動の充実・周知を図る。 ・地域行事への参加者を増やすための方策を検討する。
2. 学生支援のための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活および学修行動に関わるアンケート調査の実施と結果の開示 ・学生相談室との連携 ・奨学制度の見直しと改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学生を対象に「学修行動に関わるアンケート」と「学生生活に関するアンケート」を実施した。調査結果をまとめ、年度末に開示する。 ・今年度相談室を利用した学生数は減少したが、頻回相談者が多く見られた。 ・奨学制度を希望する学生は概ね採用となった。「あけのほし奨学金」返済の滞納は改善された。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を踏まえ、学生の満足度の向上と学生生活の環境整備を検討していく。 ・ケアが必要な学生については引き続き相談室との連携を取り、情報を共有し対応策を練る。 ・奨学金の返済滞納の問題に対し、具体策を検討していく。
3. 課外教育・活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・課外教育（オリエンテーション、全学研修会）の企画の充実 ・課外活動（ボランティア活動）の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・課外教育の企画は滞りなく行われた。 ・ボランティア活動は、参加人数 136 人、ボランティアの受け入れ先は 24 事業所となっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに関する掲示版の活用を図り、地域貢献に関する情報を提供していく。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・学修行動に関するアンケートおよび学生生活に関するアンケートの結果を公表し、改善用の検討をしてほしい（「みんなの声」の取扱いも含む）。
- ・行事の計画等について、学内掲示板を活用し周知してほしい。

部署名：入試広報センター

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 市内県内重点校を中心とした高校訪問の強化とデータベースを活用した募集活動	<ul style="list-style-type: none"> 市内校を中心に 80 校を出来るだけ回数多く訪問(高大連携校は重点的に 4 回以上)。 その上で高校別の綿密なデータベースを作り募集活動へ効果的に活用する。 	青森市内は 6～7 回、高大連携校を含む重点地域下北・上北地域さらに西北五も含めて 5 回以上、それ以外の地域も 2～3 回程と訪問活動は例年以上に強化。これらの訪問は紙媒体で報告書としてまとめ、活用した。	A	回数多く訪問することがそのまま志願者増に繋がらないこともあるが、今年度訪問タイミングが良く本学への道に繋がった例があった。連携校との繋がりが進学にうまく繋がることへの見直しと改善。
2. オープンキャンパスの順次改善・刷新	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択や入試の時節に合わせ、よりその回の特徴を際立たせたものに常に改善・改革していく。 より参加しやすい、参加したくなる会の運営内容に向けて出来るだけ本学学生の声が伝わるように企画から運営まで学生を参加させる。 	5・6 月は学生中心で企画・運営した形態で実施。学生が高校生を迎え入れ、説明・案内し参加生が気軽に本学を理解できるよう工夫した。しっかりした 2 名の学生リーダーが積極的に企画運営に関わってくれたのは成果。	A	さらなる高校生の集客に繋がる新たな視点での改善・刷新。
3. 市外・県外重点地区での学生募集の募集活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も下北地区地域募集重点地区として本学単独学校説明会(出張オープンキャンパスを企画・実施 県外重点校 20 校(岩手・秋田)への募集活動をより強化(在学生・卒業生出身校を重点的に)。 	昨年度の良さを生かし、地域出身学生も積極的に関わってくれ実施出来た。本学志願者の参加はあるが、その他の学生達への参加動員につながらない。これは課題。 県外について一特に秋田県の募集はそれなりにニーズがあり、今年度はまとまって来てくれた学校もある。しかし、仙台・盛岡・弘前との競合があるのでいつもこうとは言えない。岩手県はここ数年かなり難しい状況が続く。	B	むつ下北地区の本学への進学はある程度周知定着しているが、地域の少子化の傾向は著しい。よって、さらに募集活動の強化は緩められない。秋田県は特に県北において今年度数校(十和田・大館国際情)の本学進学の傾向が見られたが年によって変動も大きい。岩手も 0 だが遠方は在学生・卒業生その保護者の勧めは大きい。
4. 函館地区共同募集の実施(2 年目)	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は産官学プラットフォーム事業の一環として公立大・保健大も含め青森市内の公私立大学・短大 6 校連携協力し積極的に展開する。 	市内 6 校共同募集だが、当日は青森大・青森中央学院短大・大学・本学で実施。企画等については公立大も積極的に協力。五稜郭という場所柄が学生達の参加には良かったと思われ、昨年と比べ、参加学生や相談保護者等は増。	B	函館市内・道南高の進路教員への浸透は進んでいると感じられる。新聞チラシの効果も若干あった。しかし生徒の関心はまだまだ得られていない。少ない人数でも実績が出てくれば変わる。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・点検・評価項目としての柱立てについて見直しおよび検討を行ってほしい。
- ・高校訪問については、年間計画(実施時期・内容・目標数値等)を学内に見通しを持って周知してほしい。

部署名：キャリア支援センター

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. キャリア支援の充実 ・2年間を見通したキャリア教育の実践	・キャリアサポートⅠ・Ⅱの授業内容の充実	①キャリアサポートⅠ・Ⅱを学年ごとに段階的な指導内容とすることができた。講話内容や講師の精選により、学生の意識改革につながった。	A	・今年度の実施内容を継続するとともに、次年度はキャリアサポートⅡの内容充実に努めたい。
2. 企業説明会の実施 ・希望企業への早期決定に向けての指導	・実績企業の紹介および新規事業所の開拓と、一般企業希望者への指導の徹底を図る	①今年度は、合同企業説明会を6月と10月にも実施することができ、就職の早期決定に結びつく大変有意義なものとなった。 ②キャリアビジネスコース及び一般企業希望の意思表示が遅かった。	B	・合同企業説明会は大変有意義であり、学生からの要望を取り入れ、今後も継続していく。秋季実施については検討を要する。 ・キャリアビジネスコース学生の就職支援に努力する。
3. マナー教育の充実 ・キャリア支援ハンドブックの活用	・キャリア支援関連授業でのビジネスマナー指導を図る ・就職書類作成および手続きの指導を図る	①キャリアサポートⅡの授業を中心にビジネスマナーと就職に関する指導を図った。外部講師からの指導や十分な時間配分により成果が見られた。	B	・次年度は自らが実践できるマナーの指導充実を図りたい。 ・保育専攻、介護福祉コース、一般企業希望とキャリアビジネスコースのそれぞれの特性を生かすよう指導したい。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・卒後のアンケート調査（職場からの聴取、本人）の定期実施、その結果の学修成果の点検への活用を行ってほしい。
- ・求人票のPDF化の推進について検討してほしい。

部署名：総務課

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 会計業務	<ul style="list-style-type: none"> 経費支出の事務フローを作成する 情報共有とダブルチェックの徹底で、正確で円滑な事務処理を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 伝票起票、決裁、入力、出金処理等と一連の流れは整ったが、マニュアル化までには至らなかった。 通常業務での、情報共有、ダブルチェックは徹底し、処理を滞らせることはなかった。 	B	会計処理の整備を行い、事務フローの作成を実行する。 情報共有、ダブルチェックの更なる強化を目指す。
2. 文書管理	<ul style="list-style-type: none"> 文書作成、整理、保管の適正と合理化に取り組む 課内で起案内容の周知と確認を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 適正な整理、保管などに積極的に取り組み実行した。 起案内容に関しても、課内でコミュニケーションを図り、周知と確認を徹底した。 	A	正確で、合理的な文書管理ができるよう見直していく。
3. 庶務的業務	<ul style="list-style-type: none"> 出勤簿、出張命令簿等の提出書類整備、管理を徹底する。 委託業者への勤務連絡等を、迅速かつ正確に行う 	<ul style="list-style-type: none"> 日程を決め、出勤簿や出張命令簿等の確認、整備を行い正確な管理に努めた。 委託業者への連絡や日程調整等も迅速に対応した。 	A	引き続き、業務の整備、管理及び連絡等を正確にかつ効率よく実施できるよう取り組む。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・事務分掌規程に基づき、項目の柱立てについて点検・見直しを行ってほしい。
- ・事務フローの作成により、業務プロセスの明確化に努めてほしい。

部署名：教務課

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 履修等管理についての 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・補講等の掲示を速やかに行うために継続して、各専攻、教育支援部と連携し、チェック体制の強化を図る。 ・履修登録等の事務処理を円滑に進め、確認作業等の迅速化とチェックの徹底を強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各専攻、教育支援部との役割分担を明確にした上で密に連携し、授業等に関わる連絡事項を円滑に行うことができた。 ・履修登録等の作業に早く取り組むことで確認作業時間を確保することができ、学生の履修状況を確実に把握することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各専攻及び教育支援部との連携を保ち、教職協働を実践することで情報の共有化とチェック体制の強化を図る。 ・履修登録及び成績管理に伴う事務処理作業の段取りを良くし、チェック体制の強化を図る。
2. 文書管理についての取 り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・効率よく文書管理ができるように、文書処理に伴う事務の合理化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文書処理の効率化はやや不十分だったが、遅延なく正確に文書処理を行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文書処理に伴う事務の合理化を図るために、常に情報を共有し、事務処理全体の中で計画的に取り組む。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・事務分掌規程に基づき、項目の柱立てについて点検・見直しを行ってほしい。

部署名：学生課

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 合同企業説明会及び 新卒者激励会の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の選定 ・事業所への案内 ・参加事業所（卒業生）のリスト作成 ・当日の運営（両企画） 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同企業説明会は6月を10月に実施。10月に関しては昨年より規模を拡大して実施した。 ・激励会は東京と青森市で実施した。青森市での開催は想定を上回る参加者があった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・企業説明会は外部の説明会も利用しつつ、計画を立てる必要がある。 ・青森市における激励会は情報共有の方法を改善する。
2. 奨学金事務作業	<ul style="list-style-type: none"> ・学生への適切な指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種、奨学金に対して申込みから貸与（給付・減免）・回収に関して、適切に指導できたが、説明会を開く日程がとれず、配付形式を取った。個別に対応することになったが、適切に対応できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会の必要性もあるので、時間を確保するよう努力する。 ・近年、保護者からの問合せも増えてきており、対応を考える。
3. 日常的な学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを通し、話しやすい環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記1. 2. 等を行うに当たり、最も力を入れた項目になる。学生とのコミュニケーションは取れたので、提出・入力の不備については概ね守れた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・継続・自己研鑽が必要な内容であるので、継続し努力する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・学友会活動における学生のサポートに関する事、オリエンテーション等に関する事についても、点検を行ってほしい。
- ・企業説明会の計画立案については、各専攻と連携・協力して進めてほしい。

部署名：入試広報課

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. データベースの構築	① 広報活動から入試結果までのデータを高校ごとに整理し、募集活動に生かす。	高校訪問の報告書を閲覧可能な状態で事務室内に設置した。	B	データベースとまでは行かなかったので今後、情報を追加していきたい。
2. 高校訪問の強化	② 青森市内の高校および地域重点高校を徹底して訪問し、本学の魅力を伝える。	5・6月の春期、7月の夏期、10月から3月まで毎月訪問し、県内延べ327校・県外延べ150校を訪問して募集活動を行った。	A	教職員の協力で昨年度より多く訪問が実施できたが、受験者増にはつなげたい。 内容を再考していきたい。
3. 高校生への募集対策	③ オープンキャンパス、学校見学会などを通して直接高校生に接して学生募集につなげる。	オープンキャンパスは年6回開催し、特に7月開催時は初めてジムナーズで全体会を開催した。 可能な限り、校内ガイダンスと模擬授業を県内高校において行った。	A	参加者が多い夏期の開催において、暑さ対策と会場の選定および開催形態（全体会の分散開催）を考慮したい。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・高校訪問の報告書等の整理、またそれをどう活用するか具体化してほしい。
- ・オープンキャンパス、ホームページの更新等について、それぞれの活動の検証を行い、具体的な改善につなげてほしい。

部署名：図書館

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 図書館利用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用に関するアンケート調査の実施と結果の開示 ・企画（新規・既存）の充実 ・県内の大学図書館との連携事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学生を対象にアンケート調査を実施し、図書館利用に対する意見、要望を把握できた。結果の開示は年度末に予定している。 ・①絵本の読み聞かせ講座②読書感想文コンクール③ブックハンティングを実施した。新規の企画は開催が出来なかった。 ・青森中央学院大学・青森中央短期大学図書館共催でビブリオバトル（知的書評合戦）を1月に開催した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を踏まえ、利用者数の減少を改善する方策を考え、図書館利用の促進に努める。 ・次年度は新規の企画も視野に入れ、企画・運営・広報（募集方法、開催時期、内容）の見直しを行い、企画の充実を図る。 ・他大学との連携事業で課題となった開催時期、場所について検討する。
2. 教育・学修支援の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・教員（授業）との連携による学修支援の協働体制づくり ・学生にとって便利な図書検索ができるよう、支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者より参考図書の要望があり、コーナーを設けた。これにより、利用者数が増加した。 ・図書の検索は図書館業務として利用者のニーズに対応しているが、十分な活用には至らなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館と授業担当者との連携を強化し、図書館から学生への周知方法も工夫する。 ・図書館の図書検索機能の支援については継続して検討する。
3. 情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着した図書館づくり ・ホームページ（短大ブログ）や図書館会報による情報発信の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館会報を近隣の町会とステラの利用者に配布し、情報発信の充実を図った。 ・今年度は会報を4回発行した。また、ホームページやブログで広報活動の発信に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学の取り組みを参考にし、外部利用者に対し、図書館利用の周知を図る。 ・次年度も図書館便りやブログを学内外に発信し、図書館利用の促進に努める。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・ 図書利用に関するアンケート調査結果を公表し、具体的な改善を検討する必要がある。
- ・ 図書館の学内・外も含めた利用促進のために、イベントや展示企画について学内・外に周知・発信を強化してほしい。

部署名：生涯学習センター

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. センター講座	<ul style="list-style-type: none"> ・「懐かしの歌を歌う」「教員の資質向上対策講座」の2講座を開設する。 ・講座の周知を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「懐かしの歌を歌う」「教員の資質向上対策講座」の2講座を開設し、しんまちキャンパスからの参加者を増員した。 ・講座案内をホームページで周知した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・講座案内の一層の充実に努める。
2. 教育カウンセラー養成講座及び教員免許状更新講習	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の講座・講習を計画通り実施する。 ・次年度の内容と講師を選定し依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育事業部として572名の受講希望者全員を受け入れるために回数を増やし12月まで実施した。 ・ナーサリーと協力して託児サービスも実施した。 ・次年度の内容と講師を選定し依頼した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ決められた定員を守り、定員を超えた時には抽選とし、適正な回数の実施に努める。
3. 他市との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・むつ市教委の市民大学の会場提供と講師の依頼と協力をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・むつ市教委の市民大学の方が来校し、(23名)「福祉用具を体験しよう」というテーマで実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者との連絡を密にし、計画的に実施する。
4. 短大と連携した事務と広報	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携センターの事業(しんまちキャンパス、公開講座)、および履修証明プログラムの事務請負と実施協力をする。 ・出前講座の事務請負と実施協力をする。 ・実務者研修、初任者研修の事務請負と実施協力をする。 ・ピアヘルパー、教育カウンセラー補、おもちゃインストラクターの事務を行う。 ・資格取得のメリットの宣伝・説明をし、学生の受講を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携センターの事業および履修証明プログラムの事務請負と協力をした。 ・出前講座、実務者研修の事務請負と実施協力をした。 ・ピアヘルパー、教育カウンセラー補、おもちゃインストラクターの事務を行った。 ・資格取得の説明をし、学生の受講を支援した。 ・ピアヘルパー(合格者55名)、教育カウンセラー補(合格者15名) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・託児サービスの希望があった場合には、速やかに対応する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・生涯学習センターの事業報告の公開を行ってほしい。

部署名：国際交流センター

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 協定校との1+1 留学プログラム及び各種研修プログラムの提案・実施	<ul style="list-style-type: none"> ・協定校のカピオラニコミュニティカレッジ(米国ハワイ州)とのプログラムを周知するとともに希望者に対しては、留学内容、諸経費、渡航手続き等の説明を行い、全面的にサポートを行う。 ・学生の希望に応じた語学研修プログラムを提案し、学生の自己実現に向けたサポートを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KCC の英語集中コースに留学希望の1名の学生に対して、渡航手続きを始め予防接種に関する説明などきめ細かなサポートを行った。また、フィリピンのCNE1 に短期留学希望の1名に対しても同様に丁寧なサポートを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・留学希望者に対するきめ細かなサポートを継続しながら、各種留学プログラムの学生への一層の周知を目指す。
2. 国際交流事業への参加の推奨	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の他大学の学生を本学のイベント等に招いて交流する機会を設ける。 ・市内の国際交流事業への参加を呼び掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の学生祭等に関する情報提供は行ったが、交流には至らなかった。 ・市内の国際交流事業に対する情報収集は行ったが、学生への周知が十分ではなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学の国際交流課等を通して、本学の学内行事に関する情報を発信したい。 ・市内の国際交流事業に関する情報収集を行い、学生に対して参加を呼び掛ける。
3. 青森・長春教育学術文化交流協会(青森長春会)の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・中国研修旅行を企画・実施する。 ・会員増加につながる魅力ある広報紙(第18号)作りを目指す。 ・青森・長春会の奨学金受給中国人学生との交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天津・長春交流訪問ツアーを企画し、実施した。 ・本学の姉妹校である東北師範大学人文学院の創立30周年式典に参列した。 ・広報紙(第18号)の編集及び発行を行った。 ・奨学金受給中国人学生とは、総会への出席及び広報誌への投稿などを通して交流を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本協会の活動内容が魅力的に伝わるような広報紙の編集・発行を目指す。 ・引き続き、本協会の活動方針に則った諸活動を行いながら、会員同士の交流を図ると共に、会員の増加に努める。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

- ・年間の事業の計画と実施について、年間スケジュールを学生に見通しやすく周知してほしい。